

## “暮らし向き”は伸び悩み

Text by しがぎん経済文化センター 山西 麻美

東日本大震災後に低迷していた消費は回復傾向であったが、長引く円高や欧州債務危機、今夏の電力供給不安などの影響から企業の経営環境は依然厳しく、それによって世帯収入は再び減少となった。このような状況が家計にどのような影響を及ぼしているのか、消費の動向を調査するために、滋賀銀行の店頭にご来店の女性を対象に「物価と消費に関するアンケート調査」を行った。

調査名:「物価と消費に関するアンケート」  
調査時期:2012年6月6日～8日  
調査対象:滋賀県内の滋賀銀行  
本支店にご来店の女性  
有効回答数:742人

### 暮らし向きDI…伸び悩み

「世帯の現在の“暮らし向き”は、半年前と比べてどうか」との問いに対して

(図1)、現在の「暮らし向きDI」(「良くなった」「やや良くなった」と回答した合計から「悪くなった」「やや悪くなった」と回答した合計を引いた値)は-17.7となり、前回(11年12月:-17.9)から+0.2ポイントの微増にとどまった。

「今後半年間でどうなると思うか」と見通しを尋ねたところ、今後の「暮らし向きDI」(「良くなる」「やや良くなる」と回答した合計から「悪くなる」「やや悪くなる」と回答した合計を引いた値)は

「悪くなる」と回答した合計を引いた値)は-29.5で、現状(-17.7)から-11.8ポイントと大幅に悪化する見通しである。前回は震災後に低迷していた企業の業績が回復し、世帯収入も回復しつつあることで大幅な上昇となったものの、長引く円高、欧州債務危機の再燃、ガソリンなどのエネルギー価格の高騰、今夏の電力供給不安などから「暮らし向きDI」は伸び悩んだ。

### 世帯収入DI…悪化の兆し

「現在の世帯収入は半年前と比べてどうか」との問いに対しては(図2)、現在の「世帯収入DI」(「増えた」「やや増えた」と回答した合計から「減った」「やや減った」と回答した合計を引いた値)は前回(11年12月:-17.8)から-0.2ポイントの低下となり、-18.0となった。スマートフォンなどの情報端末機器や省エネ、節電機能の家電機器や衣料品、また、自動車関連などの一部の企業では業績の回復がみられるものの、円高に加え欧州債務危機の再燃による海外経済の減速、原油価格の高騰などから全体的な企業の業績は落ち込んでおり、世帯収入は再び減少。

「今後半年間でどうなるか」と見通しを尋ねたところ、今後の「世帯収入DI」(「増える」「やや増える」と回答した合計から「減る」「やや減る」と回答した合計を引いた値)は-25.9で、現状(-18.0)から-7.9ポイントも悪化する見通しである。

### 物価DI…震災後の上昇基調は和らぐ

「現在の物価は半年前と比べてどうか」との問いに対しては(図3)、現在の「物価DI」(「かなり上がった」「やや上がった」と回答した合計から「かなり下がった」「やや下がった」と回答した合計を引いた値)は+43.7となり、前回(11年12月:+39.8)から+3.9ポイント上昇した。前回は震災後、生産体制が持ち直したことによるモノ不足の解消などから大幅な低下となったものの、ガソリン、石油などのエネルギー関連の高騰などから再び上昇した。

「今後半年間でどうなるか」と見通しを尋ねたところ、今後の物価DI(「かなり上がる」「やや上がる」と回答した合計から「やや下がる」「かなり下がる」と回答した合計を引いた値)は+57.4で現状(+43.7)から+13.7ポイントと上昇基調が続く見通しである。

### 支出について…「携帯電話、インターネット等通信費」の増加が続く

「最近の世帯の支出が増えたもの、あるいは減ったものは何ですか」(複数回答)と尋ねたところ(図4)、支出が増えた項目としては、「食料費」(36.4%)が最も多く、次いで「携帯電話、インターネット等通信費」(30.1%)と続いた。特に「携帯電話、インターネット等通信費」は前回(11年6月)5番目、前回(11年12月)3番目、今回2番目となり(24.3%→30.0%→30.1%)スマートフォンなどの携帯型端末機器が急速に普及していることがわかる。また、前回に比べると「教育費」(28.3%+6.8ポイント)、「車等の維持費、交通費」(27.4%+4.0ポイント)などで大きく増加した。一方、支出が減った項目は「外出などの飲食費」(38.3%)が最も多く、次いで「旅行・レジャー費」(34.1%)となった。また、前回に比べると「光熱・水道費」の割合が特に増加しており(20.5%+3.2ポイント)、電力供給不安やエネルギー価格の高騰などから節約の動きもみられた。

